

<コンセプト等について>

御意見, 御質問	県対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し来たくなるような作りになることが一番肝要。当時を体験した人が直接話をできる場所、機会を設けてほしい。(映像や展示だけでは、現地に訪れるメリットが無いから) 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像やパネル展示にとどまらず、語り部から直接話を聞くことができる企画を検討してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・石巻市内に限らず、各地域の伝承施設の簡単な案内と復興祈念公園からのアクセス方法を案内してほしい。 ・女川町では伝承施設の設置はなく、国営施設にゆだねると聞いている。故に、女川に関する記事を盛り込む検討を願いたい。 ・「ゲートウェイ」のイメージがいまひとつできない。ここは、駅、インターに近くない場所である。いったんここへ来て、それから気仙沼、雄勝、閉上、亘理・・・と移動するということなのか、それとも宮城県全体のことをここで一括して見てもらおうということなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の震災伝承施設のほか、県全体の被災状況や復興の状況等を紹介することにより、県内各地に関心を持っていただくことを目指し、ゲートウェイ（玄関口）の役割を担うこととしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・石巻市南浜を訪れた人が「是非現地に行ってみよう」という思いになるためには、県内各地のPRがしっかりなされていることが不可欠である。各地の伝承施設・団体・個人としっかりと連携を取って進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の震災伝承施設や団体等に協力いただきながら、各地の復興の状況等を発信できるよう展示制作を進めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県の被災地、伝承施設は多岐にわたっている。全部を網羅した展示にしなければならない。相当なスケールで膨大な資料を扱うことになる。そして、それを見やすい形で、分かりやすい言葉で展示しなければならない。そのための議論は深まっていないように感じるがどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示制作に当たっては、膨大な情報を扱うため、有識者等による監修アドバイザーの監修の下、見やすく、分かりやすい展示となるよう努めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・今のままでは震災伝承の本当の意味を感じるものがないのではないかと。 ・道案内の交差点にならないよう、中核の言葉のとおり、柱のように立派になってほしい。 ・石巻南浜津波復興祈念公園は、基本計画において「鎮魂と追悼」が第一とされ、基本方針に「多様な主体の参画・協働の場の構築」と掲げられていることから、地域団体による伝承や杜づくりの活動が公園整備前から継続していることが類例のない特徴の一つである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただきます。

<展示内容について>

御意見, 御質問	県対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・震災当時のことを話す様子を映像に撮り、流す。1人5分から10分程度のショートバージョンと30分から1時間のロングバージョンを撮り、100名程度の話はかなり長いサイクルで流す。全映像は1回では見られないし、繰り返し来なくなる可能性は高いと推察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・監修アドバイザーの意見や予算の制約等を踏まえて、インタビュー映像の撮影人数や時間を検討してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・明日は我が身として受けてもらうには、具体的な生々しい実例（避難の成功・反省例）も、エリア別に入れ込む必要がある。展示概況からも見る方にグッと実感を共有できるようなものがよい。 ・展示コンセプトである「かけがえのない命を守るために、未来へと記憶を届ける場」とは、誰に対してどうしたいのかをもっと明確にすべきである。「未来へ」という文言がある以上、それは次世代を担う若人達をターゲットに、災害から命を守るのは誰でもなく自分しかいないという、東北沿岸に言い伝えられてきた「命でんでんこ」の教訓を、どうすれば災害から自分の命は自分で守れるのかを知ることから始められ、学びにつながるきっかけをふんだんに散りばめられたシンプルベストを展示すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただくとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・震災の現物を収集し展示してほしい。この建物以外に新たに保管場所を用意して、定期的に展示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵のためのスペース等管理上の課題があるため、遺物の常設展示を行わない予定です。保管場所については、予算等の制約もあり、新たに設置することは困難な状況です。
<ul style="list-style-type: none"> ・「記憶シアター」において、それぞれの場所が地元の人にとってどんな場所だったのかが分かるように、例えば、触るとその場所の思い出や記憶が表示されるなどの工夫がないと単なる映像では思い入れは生まれません。 ・「記憶シアター」において、失われた街の被災状況には、当然であるが、その中に生きていた方々がいたはず。多くの命が失われたことも分かるように記憶に入れてほしい。 ・「記憶シアター」において、「失われた街」の中身が大事。建物、風景、風物、イベント、日常生活、そして命をどう織り込むか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただくとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「記憶シアター」において、具体的に誰のどのような記憶を基にしているのか。数人の記憶か、1000人の記憶か、どのように映像化するのか。同じ土地に住んでいても、この環境が好きで住んでいる人、ここが嫌いで他に移住したくても移住できなかった人など、石巻南浜地区には様々な人がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・石巻南浜地区だけでなく、県内沿岸地域の震災前までの街の歴史や日常の記憶を遡り、震災で変わり果てた街の風景を通して被害の大きさを伝える内容を予定しています。

御意見, 御質問	県対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・「記憶シアター」において、プロジェクターの輝度が西日等に耐えられず、映像の表現力が低下する事が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天候によっては、見え方に違いがあると認識していますが、可能な範囲で対応してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「記憶シアター」において、街を偲び、被災を実感するほどの力を有した震災前の映像資料を宮城県15市町で集める取組だけでも大変であり、何らかの仕掛けが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災市町等の関係機関に協力いただき映像資料を収集してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「教訓シアター」において、震災前の防災マップをきちんと展示して、当時はどんな意識で避難訓練をしていたのか等、過ちを犯した理由を掘り下げて展示する必要がある。 ・「教訓シアター」において、「逃げる」ために必要な平時の備え、心がけの重要性を示してほしい。 ・「教訓シアター」において、県内各地の事例を紹介してほしい。 ・「教訓シアター」において、逃げた事例、逃げられなかった事例の検証が大事。 ・「教訓シアター」において、これから起きる災害被災地に積極的に炊き出しをしたり、定期的に復興アパートへのボランティアをするなど、市民が日頃から緊急時の対応練習をするように勧めること。実地体験がなければ教訓にならない。逃げた後のことも皆で皆のために協力できるように、人間を育てることが「今回の教訓」。1人でも逃げる、2人なら助け合って逃げる、とにかく逃げる、しかし、その後は皆で助け合わないと生き延びることができないことを学ぶ。自分だけよければいいという被災者が沢山いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただくとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「教訓シアター」において、「津波が来るから避難しなければいけない」というメッセージだけでなく、災害前（平時）の訓練や備えの不足など、できていなかったことも含め、周辺の施設と役割分担をしながらコンテンツづくりを進めていくことで、祈念公園基本計画に記載の「多様な主体の参画・協働」による「東日本大震災の脅威や被害の大きさを実感し、適切な避難の必要性などの教訓を伝承する場」に近づくと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。また、近隣施設と連携していくために、各管理者と調整してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「大震災の概要」において、他の展示とどう違うのか分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・監修アドバイザーなどからの御意見を参考にしながら、独自性を発揮できるよう検討してまいります。

御意見, 御質問	県対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・「大震災の概要」において、地震などのデータ表示の印象は薄くて残らない。読み手の能力が低いと無力化する。 ・「大震災の概要」において、東日本大震災は、作家や芸術家、写真家などが自らの表現活動への限界や躊躇いを自覚させるほどの言葉にできない深さや重さを有する災害であり、インフォグラフィックスによる分かりやすさと、その捉え難さや表現の限界の両面を展示できることが望ましい。 ・「大震災の概要」において、イメージ図からはパネル展示のように見えるが、デジタルで、しかも、業者が権利を持たずに、修正や更新可能な展示が望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただくとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「inori～メッセージ～」において、来館者が何かメッセージを書いて残すのは良いが、それを地元の人が見て、またコメントができるシステムを構築してはどうか。 ・「inori～メッセージ～」において、近隣にある日和幼稚園の保護者の皆さんが建てた碑のイメージがよい。慰霊、教訓、未来…、3.11で向き合ったときの想いがすべて入っている。 ・「inori～メッセージ～」において、頑張ることができた方の意見よりも、頑張ることができなかった人の声を集めて、どれだけ苦しいのかを伝えてほしい。頑張ることができた人の意見は怖さが伝わりにくい。 ・「inori～メッセージ～」において、「防災減災」をテーマとするならば、「こんな風に防災に取り組んでいく！」と、来館者が一步を踏み出す宣言文を書いてもらうことが一番効果的と感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただくとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「inori～メッセージ～」において、「追悼と鎮魂」をテーマにするのであれば（基本計画上は、追悼・鎮魂が”第一”の公園であるはずだが）、亡くなった方々のお名前をプレートで残したり、お名前と顔写真を表示させたりすべきでは。（広島では今でも被爆者のお名前や顔写真を収集し、アーカイブとして展示もしている） 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・「メモリアルギャラリー」において、そこで見られない物がどの程度集まるのか。単なる物の展示では伝わらない様に思う。 ・「メモリアルギャラリー」は、色々な団体が、代わる代わる利用ができるスペースにすべき。 ・「メモリアルギャラリー」は、それぞれの団体が期間を決めて企画展示する。それが無いときは、基本的な展示物でもやむを得ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「メモリアルギャラリー」は企画展示スペースであり、様々な団体等に活用いただくことを想定しています。 ・運営に当たっては、展示物を活用した各地域の震災伝承に関する企画も検討してまいります。

御意見, 御質問	県対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・「メモリアルギャラリー」において、証言や展示については、命を守るために本質的なものが必要であると思う。遺品や残流出物（生活感のあるもの） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「メモリアルギャラリー」において、展示する震災遺物のイメージができない。スケールからすると、ガードレールや標識、自動車等でないとしたら何を中に入れるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵のためのスペース等管理上の課題があるため、遺物の常設展示を行わない予定です。
<ul style="list-style-type: none"> ・「メモリアルギャラリー」は、どうしても、小学生が夏休みに海岸で拾ってきた貝殻程度のイメージにしか受け止められない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・「メモリアルギャラリー」において、インパクトのある被災遺物を展示できるスペースがない。大型の被災遺物の展示が不可能であれば、門脇小やつなぐ館などの周辺施設、各地の伝承施設との役割分担を明確にすべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵のためのスペース等管理上の課題があるため、遺物の常設展示を行わない予定です。また、近隣施設等と連携していくために、各管理者と調整してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「誘いスマートMAP」において、元のデータをまめに更新することと、福島、岩手の復興祈念公園に関しても相互に紹介をしたほうがよい。 ・「誘いスマートMAP」において、公共的な場所のみでなく、各地区にあるモニュメント・慰霊碑などの場所も示すことも検討してほしい。 ・「誘いスマートMAP」において、震災前の風景・被災の様子・防潮堤、かさ上げ、新しい商店街などの様子を並べて、移り変わりが分かるようにしてほしい。 ・「誘いスマートMAP」による震災遺構・伝承施設を中心に、観光スポットも取り入れ、沿岸被災地へ誘うMAPを展示したところで、その機能を大いに活用されるとは考えにくい。学校等の団体は、事前に行程を組んでくるので、この展示を見て行き先を決めることは考えにくい。個人等で行程を決めていない人などが少し活用する程度にとどまる可能性が高い。ここで一番大事なのは、事前に掲載する震災遺構・伝承施設に加えて語り部ガイドも付け加えた、宮城県への誘いをネットワーク化したリストを中心に、観光スポットの担当者と訪問調整ができる「誘いスマートコンシェルジェ」の配置が一番大事。1人でも多くの人たちが災害から自分の命は自分で守るためのきっかけや学びの種を東日本大震災の被災地、被災者からの生きた教材や教訓から得られることが、最も石巻南浜津波復興祈念公園の独自性に繋がり、強いては震災遺構・伝承施設を中心に、観光スポットまでの人と人とのつながりに通じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただきますとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。 ・なお、監修アドバイザーや様々な方からの御意見を踏まえ、震災伝承施設だけでなく、各地域の語り部などを紹介する内容に見直す予定です。 ・また、観光スポットとの訪問調整などコーディネートのあるあり方については、関係機関や皆様と調整しながら、今後検討してまいります。

御意見, 御質問	県対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・「誘いスマートMAP」は、雰囲気は軽くなるし、偏りが出てくるので嫌い。まったく必要ないと思う。このような趣向に向かうと遺族や伝承者、まじめな支援者の怒りを買う。安易なことに逃げない。ここ以外のもし作るのであれば、広島や長崎、水俣や東京都慰霊堂など、関心を持ちにくい全国の施設、バンダアチェやハイチ、クライストチャーチなど他国の被災地のことも紹介してほしい。 ・「誘いスマートMAP」において、各施設の名称や場所、写真を見るだけならばPCやスマホ所有者はGoogle Map等で誰でも見ることができる時代であり、県内各地の「何を導く」のかが問われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただくとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。 ・なお、監修アドバイザーや様々な方からの御意見を踏まえ、震災伝承施設だけでなく、各地域の語り部などを紹介する内容に見直す予定です。 ・また、観光スポットとの訪問調整などコーディネートのあるあり方については、関係機関や皆様と調整しながら、今後検討してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「誘いスマートMAP」において、遺構や伝承活動は数多く、それを紹介するためには相当大きな展示スペース（地図？ジオラマ？）が必要。「復興MAP」とどう区別して考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スペース等管理上の課題があるため、ジオラマ等の大型の展示物の展示を行わず、床置型のディスプレイモニターによる展示となる予定です。 ・「復興MAP」では、主に県内各地の復興の状況等を紹介する予定ですが、「誘いスマートMAP」については、監修アドバイザーや様々な方からの御意見を踏まえ、震災伝承施設だけでなく、各地域の語り部などを紹介する内容に見直す予定です。
<ul style="list-style-type: none"> ・「誘いスマートMAP」において、初回設置時には十分な調整が不可能だが、各地の状況は2021年以降も変わり続けるため、写真やテキストを更新可能な状態で納品してもらい、各施設が希望するコンテンツを随時掲載可能な形とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見を参考として、更新時に不都合が生じないシステムとなるよう構築していきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・「誘いスマートMAP」において、施設運営者が、県内外の施設や語り部とのネットワーク機能を構築し、各施設独自のコンセプトや行事の状況が随時更新されるような運営体制も望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営体制やコーディネートのあり方については、関係機関や皆様からの御意見を参考に、今後検討してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「証言と感謝のライブラリー」において、震災からかなり年数が経ってから集めた話は信憑性に課題が残る。単なる本や読み物を現地で見る意味はない。 ・「証言と感謝のライブラリー」において、独自に集めた証言を元に、例えば絵本にまとめて、そこでしか見られない物を置く必要がある。 ・「証言と感謝のライブラリー」において、行政の対応がなぜ悪かったのかを掘り下げる展示のほうが、よほど教訓になる。 ・「証言と感謝のライブラリー」において、各エリアの避難について、課題のある事例を入れ、その証言から命を守る学びを得るようなものがほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただくとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。

御意見, 御質問	県対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・「証言と感謝のライブラリー」において、地域別、内容別、ケース別などカテゴリーを決める。 ・「証言と感謝のライブラリー」のタイトルが軽々しくて残念。未だに遺族は感謝の言葉が言いたくても、それ以上に苦しみが重くて言葉を発することができない。辛いことはなかなか変化しない。苦しみから復活したような人の姿は1万人に1人のようなこと。その稀な人を感謝の声として代表させるのは無謀。この企画はずれている、被災者・遺族が同調するものではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただくとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「証言と感謝のライブラリー」において、コンセプトは理解できるが、中身（と進行状況）がとても心配。どんな内容で、何人の証言が集められ、どういう整理が進んでいるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・監修アドバイザーの意見を踏まえて、具体的な状況が思い浮かべることができ、ここの学びにつながるような証言の収集・抽出に努めたいと考えております。
<ul style="list-style-type: none"> ・「証言と感謝のライブラリー」において、コンセプトの一つである「感謝」の展示は現場で起きていた様々な人と人との関わりに精通していなければ展示が難しいが、このスペースの機能である「証言の視聴」とは別に、「感謝の表現」をきちんと実現する場が必要と感じる。 ・「証言と感謝のライブラリー」において、宮城県に何十万人（石巻市で分かっているだけでも30万人）の方々がボランティア活動に携わったり、様々な支援により生活を支えてくださった事実は軽視できないし、訪れる方々が震災や防災を「自分事」として考えてもらうきっかけにもなるので、「感謝」はコンセプトだけでなく、共感を呼ぶヒューマンストーリーを展示したり、ボランティア団体に資料提供をお願いしたりして、しっかりと作り上げる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただくとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「証言と感謝のライブラリー」において、15市町から集める「証言」の内容は、膨大でありながらも訪問者にしっかり向き合ってもらいが必要があり、現在の「システム什器」イメージ図のような、下向きの姿勢でしか見られない形ではなく、長い時間視聴しても無理のない形で提供すべきコンテンツと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただきます。「什器」については、御意見を参考に、無理のない姿勢で見ていただけるような形状に見直す予定です。
<ul style="list-style-type: none"> ・「津波から命を守るために」は、この地で何人死んだという単なる数字でしかない。具体的に誰がどの様な行動を取ったために亡くなったのかを表記展示することで失敗から学ぶ方が伝わると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御指摘のとおり命を守るための具体的な行動を考え、学んでいただける内容構成になるよう努めてまいります。

御意見, 御質問	県対応方針
<p>・「津波から命を守るために」において、本当の意味で津波の怖さを知っているのはあの日亡くなった多くの方々です。残念ながら聞いてあげることにはできませんが、その多くの方々の命の教訓として、今生きている人達の街や高盛土道路が造られています。あの日あの瞬間まで私たちの側で生きていたのに一瞬にして命を奪われた多くの方々、その一人一人の命が教えてくれた命の大切さこそが津波から命を守るためになると思います。一人一人の名前を残してあげること、彼らの大切な命を教訓として今を生きている人達の最低限な礼儀なのではないですか。一人一人の名前を残してあげることを検討してほしい。</p>	<p>・御意見として承り、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>・「津波から命を守るために」において、日和山のみならず他場所のものも何かで紹介してほしい。</p>	<p>・建物の立地場所を踏まえ、「日和山」を紹介することとしています。他の場所の紹介については、御意見として承り、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>・「津波から命を守るために」において、コンセプトがよく分からないが、日和山を見渡せる空間はよい。海を見渡せるスペースもほしい。海は「恐ろしい、大切なものを奪った」存在では決してないこと、地球と関係づくりをする、自然と共存・対話をしていくのが防災の本質であることを伝えたい。特に宮城県は海とともに生きてきた。その歴史、未来に想いを馳せるようにしたい。</p> <p>・「津波から命を守るために」において、訪問者の意識変化を目指すことは本公園や中核的施設の核心的な目的の一つだが、公助ではどうしても対応が行き届かない部分を自助や共助でどうやって避難の声掛けをしたり支え合ったりしてもらえるかが救える命の数に直結するため、意識を「植え付ける」という上からの発想ではなく、気づきを提供したり、自分事として考えてもらえる工夫が必要である。</p>	<p>・御意見として承り、今後の参考とさせていただきますとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。</p>
<p>・「津波から命を守るために」において、近接の南浜つなぐ館では100人の聞き取り結果を活かした避難教訓をプロジェクションマッピングで可視化しており、より力強いメッセージが伝わるよう更新をしていく予定である。県全体の伝承を担う中核的施設においては、南浜や日和山への避難に関しては地元に着した類似施設との相乗効果に期待することとし、県内被災各地の避難の教訓を、位置の分かる映像・避難経路・浸水深（予想と実際の両方）・体験談をセットで掲示し、さらに、ここだけでは伝わらない内容が沢山あることを暗示して、より詳しい内容を知りたい方に各市町の施設を紹介するような展示の工夫をすれば、「導き」のコンセプトに合致するのではないか。</p>	<p>・御意見として承り、今後の参考とさせていただきますとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。</p>

御意見、御質問	県対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・「宮城県復興MAP」において、復興とは何なのか？ そのこと自体を考えるスペースにしたほうがよい。耳障りが良いので皆復興というが、何を持って復興というのか？ 南浜は復興したのか？ 答えはノーだと思う。では、そこに住んでいた人は？ 何がどこまで進んだら復興なのか？ 復興とは何なんだろう？ と疑問を投げかけるほうが、見る人を惹きつける興味を持つと思います。 ・「宮城県復興MAP」において、復興は、心の復興も必要であり、展示紹介全体が、いのちに深く関わる内容にしていきたい。そのようなものが薄いと物的な復興は復旧としかならない。 ・「宮城県復興MAP」において、復興については順調に進んできた部分だけではない。課題についてももしっかり向き合った展示にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただくとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「宮城県復興MAP」において、各被災地の復興の様子や活動、交流について紹介するとあるが、漠然としている。各地の復興の様子や活動、交流のMAPを展示するだけで、その機能が大きい活用されるとは考えにくい。事前に「宮城県復興MAP」に各被災地の復興の様子と一緒に、各地域で今でも取り組んでいるボランティア活動団体、ボランティア内容の掲載、各地域での交流団体や交流イベント情報をネットワーク化したリストを中心に、すべての担当者と訪問調整できる「宮城県復興交流ボランティアコンシェルジュ」を配置することが大事である。このコンシェルジュが事前に相談を受けることで、この公園に来る前に回るポイントやスケジュールを組むための調整が可能となり、公園側でも、事前に予約時間の調整が可能となる。一人でも多くに人達が災害から自分の命は自分で守るためのきっかけや学びの種を震災の被災地、被災者から生きた教材や教訓が得られることが、最もこの公園の独自性につながり、ひいては、各地域で今も取り組んでいるボランティア活動団体、ボランティア、各地域での交流団体や交流イベントの人と人のつながりに通じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただくとともに、監修アドバイザーに展示内容の適正性を判断いただき、制作を進めてまいります。 ・また、コーディネートのあり方については、関係機関や皆様からの御意見などを参考に、今後検討してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「宮城県復興MAP」において、このままでは、何処に行っても無味乾燥でリピーターは無い。 ・「宮城県復興MAP」において、神戸や中越も「復興完了」宣言はできておらず、東北は日本全体が下り坂の状況で震災が起きており、更に厳しい状況に向き合う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・「宮城県復興MAP」において、「復興予算による復興事業」の案内や紹介をしたいのか、「人間復興」の物語を紹介するのははっきりしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・監修アドバイザーや様々な方からの御意見を踏まえ、復興を実感できる場所、物産品やイベントなどを関係者の証言を通して紹介する内容に見直す予定です。

御意見, 御質問	県対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 「宮城県復興MAP」において、「復興事業の案内や紹介」であれば、この場所は、多くの方が暮らし、また、亡くなった場所であることも踏まえ「被災地外の方々が勝手に期待する幻想MAP」にならないよう、家族や住居を失って離散したり、被災後も生活や経営に苦しんでいる方々の生活実感と乖離のない展示にする努力を積み重ね、その結果を更新していけるものにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「宮城県復興MAP」は、監修アドバイザーや様々な方からの御意見を踏まえ、復興を実感できる場所、物産品やイベントなどを関係者の証言を通して紹介する内容に見直す予定です。 なお、「証言と感謝のライブラリー」において、被災者の方々の証言を紹介する予定としております。

<運営について>

御意見, 御質問	県対応方針
<ul style="list-style-type: none"> コーディネート機能が重要であり、企画や連携でも各種団体・個人とのネットワークづくりを急ぐ必要がある。 県内（あるいは全国）の震災伝承について詳しく知っている人を配置しないとイケない。 全国の語り部で見られるが、語り部によって温度差や解釈の違いがある。言葉の伝承の基本データをつくり、語り部の格差を無くすことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 御意見として承り、今後の参考とさせていただきます。 コーディネートのあり方については、関係機関や皆様からの御意見などを参考に、今後検討してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> 「3.11のつどい」等の追悼行事開催や、語り部による案内、石巻南浜から大川小学校へのバス案内などが市民主体で行われているが、中核的施設が整備された暁には、公園の趣旨に沿ったこれらの市民団体の推進役や調整役としての役割が必然的に期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> 御意見として承り、今後の参考とさせていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> 「がんばろう！石巻」看板のある市民活動拠点の訪問者は年間4万人を超えており、「南浜つなぐ館」にも年1.6万人の来館があるうえ、北部の隣接地には日和幼稚園遺族による慰霊碑や震災遺構門脇小学校が立地することから、徒歩で見学可能なこれらの場所に限らず、車やバスで移動する県内の震災遺構や伝承施設との連携を踏まえた展示の棲み分けや相乗効果を調整するための（多様な主体の参画・協働の）場を設け、公園整備後もよりよい活動を生み出すために丁寧なコーディネーションを継続する柔軟な運営体制が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> コーディネートのあり方については、関係機関や皆様からの御意見などを参考に、今後検討してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> がんばろう石巻の看板、南浜つなぐ館、大川小、門脇小との役割分担を明確にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> この展示では、県内の震災伝承施設等へ導くゲートウェイ（玄関口）を目指しています。また、近隣施設と連携していくために、各管理者と調整してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> 石巻南浜地区に住んでいた人を雇用して、この場所が元々どのような場所だったのかを正確に伝えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 御意見として承り、今後の参考とさせていただきます。展示解説員の設置に当たっては、研修を行い、適切な対応を図ってまいります。

御意見, 御質問	県対応方針
<p>・小学生くらいの子どもたちにも分かりやすい提供も加味しながらも老若男女すべてに対応できる提供とは、全てハードではなく、対応する人の臨機応変さとスキルとノウハウでしかない。「記憶をめぐる杜コンシェルジェ」「いのちを学ぶ回廊コンシェルジェ」の存在意義が最重要と考える。</p>	<p>・御意見として承り、今後の参考とさせていただきます。</p>